

人生ハンド仏句

第151号

H. 26. 10. 1

(毎月1日発行)

家庭は心と心が

触れ合うところ

位 職 谷川寛俊

「家はあるが、家庭は無い。時間はあるが、ゆとりが無い。楽しみはあるが、喜びが無い…」うん考えさせられる言葉です。まさに現代社会を象徴しているように思います。

ある人が、「ハウスー」と言って犬を犬小屋に入れて待たせるといふ様な様子を毎日していたそうです。「ハウス」は家です。家庭ではありません。私は「ハウス！」と犬に命令しながら次のような事を考えていたというのです。多くの務め人がそうであるように、朝、家を出て行って、夜、帰宅する。ご飯を食べ、テレビを見て、お風呂に入って寝る。他との関わりを一切持たない、これは単なる

「ハウス」。つまり温かみのない無機質な【家】と言うものではないかと。一方【家庭】というのは、「ホーム」と言う様に、家族が一つ屋根の下で互いの関わり合いによって成り立つ所であり、ここに「ハウス」と「ホーム」の大きな違いがあるのでないでしょうか。

冒頭に記した「家はあるが、家庭は無い」を言い換えると、「ハウスはあるけどホームが無い」という事になりましょう。そしてこの「家庭」というものが現代社会から消えつつある事に一抹の不安を抱きます。

時には他人と関わり合うことを煩わしいと思う事もあるでしょう。一人だつたらどんなに楽だろうと思う事もあります。しかし、その煩わしいと思ってしまう人間関係の中だからこそ成長できる事もあると思います。

ある人は、会社に出勤しようと玄関のドアノブに手をかけた時、コツコツ

「人生ハンド仏句」と打ち込んで頂けば、ホームページにつながります。

編集・発行
玉蓮山 真成 寺
編集部 谷川久仁子
TEL・FAX 0765-22-2268

と上の階から人が下りてくる足音がしたそうです。驚いた事にその人は、その足音が聞こえなくなるまで玄関口で息を殺してじっと待ち、足音が聞こえなくなることを確認してから、ようやく扉を開けて出勤したのだそうです。扉を開けて「おはようございます」という一言が言えないのです。玄関の扉は、その人の『心の扉』なのだと思えました。その人の『心の扉』が閉まっている証なのかもしれません。一言声をかけられたなら、どんなにか気持ちが開かれるのになあ…なんて、私は思っています。皆様はいかが思われますか？

お寺の今月の掲示板には、《まず自分から おはようございます》と掲げてあります。家庭は家族にとって、もっとも身近な場所です。だからちよつとした争いごともし起るでしょう。必ずしも平穏ではないと思います。しかし家族だからこそ言い合える、ぶつかり

合える、本気になれるという事もあるはず。慰め合い、いたわり合い、時にはぶつかり合う。それが出来るのが家庭というものであります。つまり人生の鍛錬場(たんれんじょう)であり、修行の場なのではないかと思えます。

日蓮聖人は【極楽百年の修行は穢土(えど) 一日の功に及ばず】と仰っておられます。人と人とが研磨し合う事こそが、何より人生の醍醐味であることに目覚め、日々感謝して過ごすことを誓い合いましょ。

